

## 刊行にあたって

少子高齢化が加速するわが国では、少子化対策としてさまざまな政策が立案され、徐々に実行されつつあります。医療の分野においても地域によって年齢制限はあるものの医療費の無料化が実施されています。そんななか、子どもの歯に対する関心が高く、さまざまな心配を抱えて歯科を受診する保護者が増えています。そこには、乳歯の萌出異常や遅延、先天欠如、う蝕、外傷、同様に永久歯のう蝕、不正咬合、先天欠如、歯周病等々、健全な咬合を育成するうえで、障害となるさまざまなリスクファクターが存在し、歯科医師として、あるいは患者のために最良の治療と対応が求められています。さらには、長期的な管理のなかで、かかりつけ歯科医として各ステージでの患者の訴えを的確に判断し、治療を行うことはもちろん、訴えがなくても定期的に、あるいはさまざまな機会をとおして現状を診査し、適切なアドバイスを行わなくてはなりません。

本増刊号では、とくに「子どものう蝕治療とリスク管理」にスポットをあて、子どもたちの明るい未来のために開業歯科医師ができること、すべきことをさまざまな角度からまとめました。妊産婦を対象にした0歳からのう蝕予防に始まり、乳児・幼児・学童期の各ステージにおけるリスク因子をご理解いただくとともに、小児のための特異的な治療方法や口腔衛生指導は当然ながら、生活指導、さらには摂食指導、習癖の改善や診療環境の構築までを網羅しました。

本増刊号が、子どものう蝕の予防と治療、さらにはリスクマネジメントのバイブルとなり、子どもや保護者に対する啓蒙にもお役立ていただければ幸いです。

2016年6月  
編集委員一同